

## 町長室から

新型コロナウイルス感染症が止まりません。ついにWHO（世界保健機関）はパンデミック（世界的な大流行）とみなされると宣言しました。パンデミック宣言は2009年の新型インフルエンザが世界で大流行して以来ということとです。

浦幌町では当初北海道知事の要請により、2月27日より小中学校を1週間程度臨時休業にし、幼稚園、保育園は開くものの学童保育所及び子ども発達支援センターくれよん広場については3月4日迄休所の措置をとっていました。しかしその後、政府から子ども達の集団感染を未然に阻止するための手段として小学校、中学校、高校及び特別支援学校を3月2日から春休みまで全て臨時休業とすることを全国に要請したことから、浦幌町においても春休みになる前日まで小中学校の臨時休業の措置を取りました。

ただし、企業などに対して子どもを持つ従業員が休暇を取得できるように配慮するとともに、保護者が労働などにより昼間家庭に居な

い子どものうち、特に小学校低学年の子どもなどについては、留守番が困難な場合や、保護者が休暇を取得することが困難な場合も想定されることから、学童保育所や放課後デイサービス事業は感染の予防に留意したうえで原則として開所するように通知が出されました。

これを受けて、浦幌幼稚園、さらには保育園及び浦幌ひまわり保育園は引き続き開園することとし、学童保育所及び子ども発達支援センターくれよん広場につきましても3月5日から開所することにしました。なお、学童保育所は小学校が休業しますことから開所時間を8時30分から17時30分まで延長して受け入れることとしたため、浦幌幼稚園での受け入れが出来なくなり、保育の安全面や感染リスクを避けるため臨時的に中央公民館での受け入れとしました。これらの措置は子ども達にも相当なストレスがかかるのではないかと危惧していますが、各御家庭には子ども達の体調の管理と心のケアをお願いしたいと思います。

コロナウイルスの影響で大きな行事の自粛などが政府から要請される中で、十勝から2校の出場が決定していた春の甲子園野球大会も中止となってしまいましたし、パンデミック宣言で世界から選手が集まる東京オリンピックの開催自体もどうなるか予断が許されないことになっています。

予防・治療薬もない今の段階では、新型コロナウイルスを封じ込めるために咳エチケットや手洗いの励行など、誰でもできる感染予防対策をしっかりと行っていくしかありません。

世界経済への影響は計り知れないものがありますが、どこまで波及するのか今はまだ見通すことが出来ない状況です。政府の対策も状況に応じて日々変わっていきませんが、終息宣言が出るまではかなり息の長い時間を要するのではないかと思いますので、浦幌町内において影響を受ける方達や事業者の皆さんもおられます。

浦幌町では3月2日に対策本部を立ち上げましたが、町内で感染者が発生したための立ち上げでは

なく、この感染症に対しての予防策と対応策を行うことが目的であり、影響を最小限にとどめるため、状況をしっかりと見極めながら関係者の皆さんと相談させていただき、可能な限り早め早めの必要な対策を取りたいと考えています。

令和2年度浦幌町予算は8特別会計合わせて総額101億3357万3千円で、第1回定例議会にて可決されました。今年度は認定こども園建設事業が大型事業となります。来年は幼稚園、保育園の子ども達が元気に新しい施設に通う姿を楽しみにしていたきたいと思います。

また、久門教育長が退任して、後任に元浦幌小学校校長の水野豊昭氏を教育長とする議会の同意をいただきました。これまで「教育の日」の制定や「小中一貫コミュニティースクール」の推進など教育行政に努力をしていただいた久門氏には心から感謝とお礼を申し上げます。

浦幌町長 水澤一廣

連載  
108

## 仕事について考える

札幌大学社会学部

教授 平岡祥孝

ようやく早春の季節を迎えました。残雪この生活も残り少なくなってきましたね。

過日、ある地元企業の管理職の方と昼食を共にしたときのことです。若手社員の教育に苦労されている愚痴を聞きました。氏の失敗談を要約すれば、ほぼ次のような内容でした。

新卒の女性の部下に「この仕事やってくるかな」と尋ねると、「出来ると思います」との返事だったそうです。しかしながら、1週間経っても報告を超越さないの、「あの件はどうなっているの」と催促すると、「やっぱり無理でした」との返事だったそうです。氏は一瞬目を疑ったそうですが、「出来ないなら、すぐに相談してくれないと駄目だろう」と、少し強い口調で注意したとのことでした。すると泣きながら、「辞めます」と一言。「上からは『何をやっただんだ。君の指導力不足だ』と叱責され、人事からは『やっと採用したのに。参ったなあ』と文句を言われました」と、氏は散々な目に遭ったことを語った次第。

「今後のキャリアを考えて、自信をつけてもらおうと考えたのですが、裏目に出てしまいましたよ。結果的に、まるまる彼女に任せただことになってしまいました。コミュニケーション不足が原因ですかね。もっと私から声をかけるべきでした。ただまあ、今の若い人の心内は推し量れません。私の方が泣きたいくらいです」と、氏は落胆していました。

売り手市場が続く中であって、採用確保優先に走りがち企業は他企業に逃げられることを恐れて、逆に面接による評価が粗雑になるそうです。「人事こそ、何で採用したんだよ」と、氏の心の声が聞こえるようでした。同情すべきは氏の方でしょう。氏は、「教育も難しい時代ですよ。どのように学生と接しているのですか」と、私に訊いてくれました。

「あくまでも俺流ですが」と前置きした上で、「ゼミナルでは職業社会を意識しつつ、学びの心構えを丹念に説いて、学ぶ意味を納得させることに時間をかけます。学びの過程では任せる箇所は任せても、困難に直面した場面あるいは方法や知識が必要な場面では、助言や指導を徹底的に行います。そのためには、学生個々の学びの過程を正確に把握しておく必要があるでしょう。一人ひとりの性格を見極めるまでは手探りですが、普段から個人面談を頻繁に繰り返して、権威に頼ること

なく信頼関係を築いていくように努めています。コミュニケーションの質は、接触頻度に比例するのではないのでしょうか」と答えました。

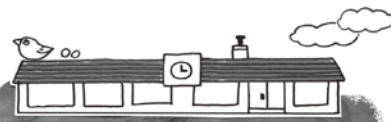
もちろん完璧な教育や指導・支援などはないでしょう。ですが、私の拙い経験からは、それらには可能な限り時間をかけることが最も大切だと思えます。学生に迎合する必要など感じたことはなく、また迎合してはいけませんね。ただし、学生気質の変化も著しいことも事実です。大学大衆化の時代にあつては学生の意識や行動を理解しつつ、如何に学生の成長を促すかが、人間性を含めて教員としての力量と手腕が問われるところ。

職場においても管理職こそ、真の「働き方改革」を実行して、部下と向き合う時間を生み出すことが必要ではないでしょうか。私の独断と偏見ですが、さしたる意義も認められないような無駄な会議や、ほとんど役立たないような資料作成・書類作成に時間を浪費しているかも知れませんね。いずれにしても、管理職の「忙しごっこ」は止めないと。



【ひらおか・よしゆき】札幌大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

## Tokomuro lab 通信 vol.1

浦幌町字常室 51-1  
Tel: 015-578-7580

どうも、常室ラボ長の三村直輝です。

常室カフェをしたり、「新しいしごとの創造拠点」である常室ラボ（以下ラボ）を運営したりしています。ラボを身近に感じてもらったり、ラボに足を運んでもらうきっかけになればと思い、この常室ラボ通信を始めました。

ラボではこれまで、町民の方が主体となってハンドメイド雑貨・服・お菓子の販売、椅子作り体験、ブローチ作り体験やペーパークラフトロケット作り体験など様々なイベントが開催されました。みなさまにはイベント参加者として足を運んでいただくことももちろん、自らがイベント主催者として「得意なこと・好きなこと・楽しいことをカタチにする」場所がラボの大きな特徴だと思っています。

昨今では「しごと」のカタチや「働き方」が大きく変わってきています。ラボを通じて「自分らしい「新しいしごと」のあり方って何だろう？」と考えるきっかけになればいいなと思っています。それではまた。

## 【開校時間Opening Hours】

ラボ 月曜、木曜、金曜、土曜、日曜  
10:00-17:00

キッズスペース（無料）やフリースペース、コワーキングスペースをご利用いただけます。校内の見学やイベント開催のご相談 etc... 承ります！ぜひ遊びに来てください（＾０＾）

カフェ 土曜、日曜  
11:30-15:00...ランチタイム  
15:00-17:00...カフェタイム

校庭を眺めながら、うらほろ食材の美味しいお料理とスイーツでリフレッシュ。珈琲一杯からお気軽にどうぞ♪